

ただいま展示中

11/18(火)～21(金)は展示替臨時休館

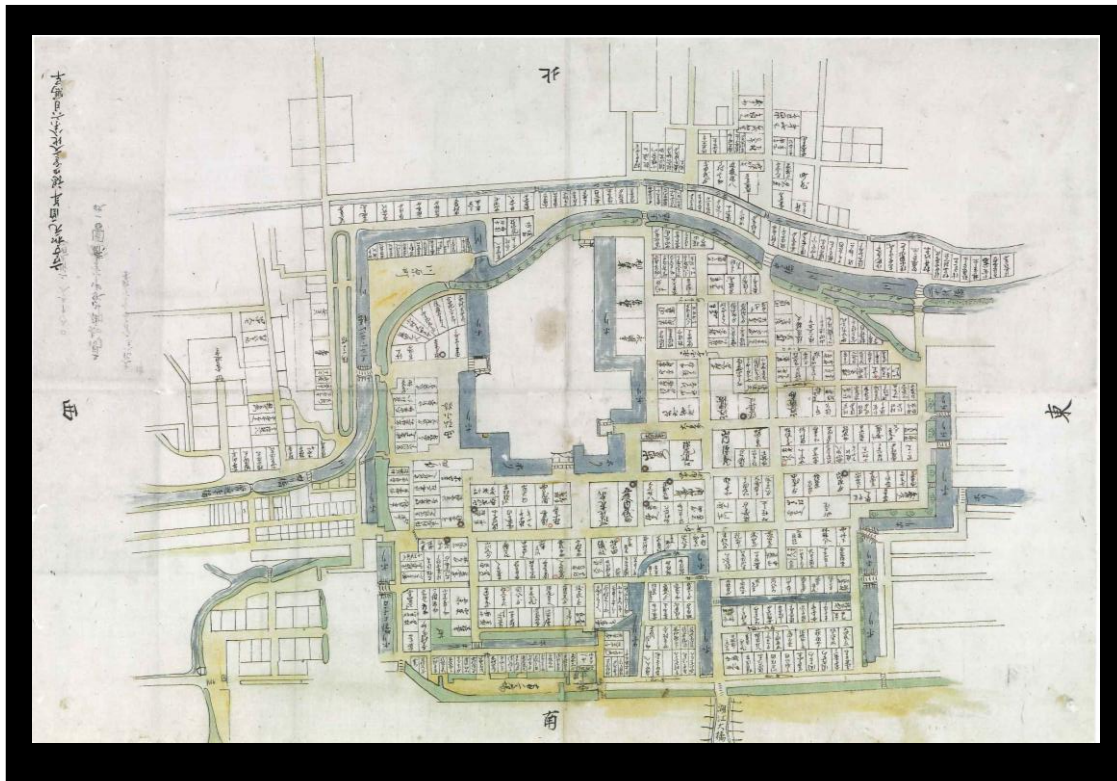
高知御家中等鹿図

こうちごちゆうなどあらず

土佐藩家老五藤家に伝わる高知城下町絵図で、享和元年（1801）の原図を、文化8年（1811）に写したものです。中心の高知城を取り囲むように、東は堀詰、西は升形まで、町人町と区切られた武家屋敷が「御家中」として描かれています。絵図左下に描かれている上町東南部辺りは、上町西端部の貼り間違いと思われます。

城周りには藩の重臣を、東北部や南西部には与力屋敷が配されており、防御的・身分的意図がうかがえます。特に城の南門前には、筆頭家老の深尾家と並んで、安芸の土居を任された五藤家の屋敷が見られます。また藩の役所であった「北会所」「南会所」が追手門の東とその南の帯屋町に確認できます。各屋敷には氏名が記されており、他の城下町絵図と比較することで、屋敷の変遷等も知ることができる貴重な絵図です。

五藤家には、この絵図を含む約23000点の古文書や、1000点をこえる武具や絵画、漆工品、陶磁器などの美術工芸品が残されています。多くの貴重な資料が現在まで散失をせず残されている裏には、五藤家一族の強い意志が感じられます。これらの資料は、昭和60年（1985）市民共有の文化財として後世に伝えるため、安芸市に寄贈・寄託され、現在当館で大切に保存・公開しています。

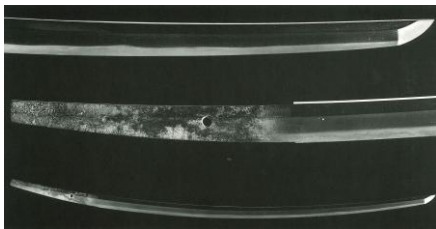


五藤家の刀剣

五藤家の御道具帳『御腰物大小並副具等基牒(おんこしものだいしょうならびにそえぐとうきしょう)』によると、五藤家には当時90余振りの刀があり、各種の祝事、元服、不幸の時などの交際に、刀剣の贈答が頻繁に行われていたようです。家老職であった五藤家がどの程度の位列のものを差していたのか、あるいは拵はどのようなものだったのかは、残された古文書や刀より推測するほかはありませんが、五藤家の格式や、誠実質素で分を重んじる家風がうかがえて大変興味深いです。

写真は安芸市保護有形文化財に指定されている、太刀 銘 来国光(鎌倉～南北朝時代)です。もとは更に長かったものを磨り上げ、茎先に太刀銘「来国光」と残っています。

国光は、京の刀工・来国俊の子（一説では門人）で、来一門の正系を継いだ名工です。五藤家文書によると、文政8年（1825）拝領となり、旦那様御晴指として五藤家7代当主・正順の差料であったと残されています。



戦国時代の武将・安芸氏の居城跡

「安芸城跡」

資料館の目の前には、延慶元年（1308）安芸親氏によって築かれたといわれている安芸城跡があります。

標高約41m、東西約100m、南北約190mの楕円形をした平山城で、子どもでも登りやすく、頂上まで5分ほどで到達できます。城跡は中世の城山部分と江戸時代に当地をおさめた五藤氏によって整備された土居からなり、詰・虎口・曲輪・土塁などの遺構が良好に残っています。城山にはお城好きで知られる落語家・春風亭昇太郎匠も登られ、資料館では師匠直筆の御城印も販売しています。



Instagram



X



AKI CITY MUSEUM
of HISTORY and FOLKLORE

安芸市立
歴史民俗資料館

〒784-0042 高知県安芸市土居953番地イ TEL 0887-34-3706

©令和土佐藩・高知県立高知城歴史博物館 配布期間：2025.10.11. - 12.7

令和土佐藩

志士たちの生きた街

